

産学連携学会創立20周年
～これからの学会運営について考えていること～

産学連携学会 会長（第10期）

石塚悟史（高知大学）

これからの産学連携について

- 世界がニュー・ノーマルへと動く中で、我が国は官民を挙げて必要な取組みを加速している。その実現のための産学連携が求められている（特にDX（デジタルトランスフォーメーション））。
- GX（グリーントランスフォーメーション）に関する産学連携の活性化も重要である。
- VUCA時代と呼ばれる現代社会において、オープンイノベーションや産学連携の取組みの重要性はますます高まっている。
- オープンイノベーション+スタートアップとの協働が重要になる。
- 地域におけるイノベーションエコシステム形成（産業構造の変化に対応した取組み）とともに強靱なバリューチェーンの構築は急務である。
- 外国人材との共生社会に向けた高度専門職外国人材の育成と地域定着（大学に期待）を推進する。
- リバースイノベーションに向けた取組みを着手する（グローバル化）。

など

学会員のための学会

- ・「学会員のための学会」を実現するために、産学連携学会の活動である、地域連携活動の総合支援、産学連携業務の専門職化、新しい学問領域「産学連携学」の確立に向けた取り組みを強化していき、会員増強に繋げていきたい。そのための方策として次のことに力を入れていきたい。

学会誌、研究大会、シンポジウムの充実

- ・学会が学会員に提供する最大のものの、学会誌、研究大会、シンポジウム、これらを今以上の充実を目指す。

- ・情報発信力の充実を通じて、社会的存在感をさらに高めるとともに、それ以上に学会員の実績を高めるものとしたたい。

例：リモート化・オンライン化に対応した研究大会、シンポジウムの開催、学会誌や書籍の電子化（実施済）、産学連携学入門改訂版（電子書籍）の発行、HPのリニューアル（今期に検討・着手予定）、SNSを活用した学会活動（支部・研究会等）の見える化（一部実施）など

- ・学会誌に掲載された論文を中心に、著者から論文の内容を詳しく聞ける場を設け、交流を促進させるとともに、論文投稿数の増加につながる取り組みを進めたい（試行的に実施済）。

支部・研究会活動の強化

- 支部・研究会活動のリモート化、オンライン化を促進し、会員へのサービスの向上と会員増加につながる活動を進める。

例えば、大学発ベンチャーに関する研究会、DXやGXに関する産学連携に関する研究会、国際連携に関する研究会といった、会員ニーズを踏まえた研究会の立ち上げを進めていきたい。また、新入会員が支部・研究会活動に参加しやすい環境づくりをする。

支部

北海道支部
東北・北関東支部
中部・北陸支部
関西・中四国支部
九州支部

研究会

オープンイノベーション研究会
リサーチ・アドミニストレーション研究会
地域社会実装研究会
日韓比較研究会
行動経済学・社会システム研究会
ESD（持続可能な開発のための教育）研究会
地域連携教育研究会

若手会員の活躍の場を創出

- 産学連携に携わる人々の業務がコーディネータに加え、URA等、多様化が進む中、学会でも研究大会や研究会等を通して、経験が浅い学会員には広範な体系知と経験知の吸収の場を提供することを積極的に行うとともに、若手会員が活躍できる場の創出に繋がる活動を引き続き進める。

グローバルな視点の活動の強化

- 伊藤会長の時代に韓国産学協力学会とMOUを締結し、それ以来、日韓WSを開催し交流を続けている。コロナ過で交流活動に影響が出ているが、今後も韓国をはじめ、グローバルな視点での国際WS（今年山形で開催予定）やシンポジウムの開催を進めていく。

最後に

地域が特色ある活動を活発に行う豊かで個性と活性に富んだ社会をつくりあげるため、産学連携学会として取り組むべきテーマ、ご提案、ご意見をお待ちしております！